

「ふるさとの森づくり県民の集い」に参加しました

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林整備センター 長野水源林整備事務所



会場の様子

長野水源林整備事務所は、令和元年6月8日（土）、「育てよう 未来の森を いろどる木」を大会テーマとして開催された、『令和元年度「ふるさとの森づくり県民の集い」(第70回長野県植樹祭)【主催：長野県、中部森林管理局、木曾町など】』に参加しました。

会場は、木曾郡木曾町三岳「御岳ロープウェイ」と隣接する黒沢御岳国有林で、民国連携の森林づくりをテーマに行われました。

小雨の中での式典開始となりましたが、徐々に青空が広がり、御嶽山の残雪に見守られながらの植樹となりました。植樹は、牧草地跡 2.1 haに、地元小学生や下流域の愛知県からの参加者が、5,600本のカラマツのコンテナ苗木を植えました。

参加者は、「緑の中で、交流しながら、緑を大切に作る心の輪を広げる」活動に、黙々とかつ楽しみながら、取り組んでいました。

会場内には、森林整備活動のPR、郷土物産品の展示・販売、森林教室など、様々なコーナーが設けられていました。

当事務所では、職員が植樹に参加するとともに、会場にブースを設け、パネルの展示や、「木のたまごづくり」、「木の漢字当てクイズ」を行い、水源林造成事業のPRを行いました。

「木のたまごづくりコーナー」では、子ども達は、ヒノキやスギの香りがする木玉に、「これを父の日のプレゼントにする!」、「丸いから難しい」などと言いながら、いろいろな色を使って、自分だけの「木のたまご」を作っていました。

この「木のたまご達」が、子ども達にとって、「木使いの卵」となり、彩り豊かな未来の森づくりの輪が広がっていくことを期待したいと思います。

長野水源林整備事務所は、これからもより多く地域の皆さまに、木や森林に関心を持っていただき、水源の森林づくりの輪が県内・県外各地に広がっていくように努めていきたいと思えます。



木のたまごづくり



木の漢字当てクイズ